

# 第2学年音楽科学習指導案

## 1. 題材名

けんぱんハーモニカでひょうげんを楽しもう

教材：『四季』より「春」（ヴィヴァルディ作曲／山下国俊編曲）

## 2. 題材の目標

### (1) 音楽科としての目標

- タテ線譜を見ながら自分で鍵盤ハーモニカを演奏する学習に意欲的に取り組む。
- 原曲を聴き、強弱や音色についてどのように表現したいか思いを持つ。
- 3パートの音を聴き合いながら、友達と音を合わせて演奏する。

### (2) 汎用的スキル

- タテ線譜を見ながら自分で鍵盤ハーモニカの練習を進めることができる。グループ練習では、互いの演奏を聴き合い気付いたことをアドバイスしたり話し合ったりできる。(問題解決力)(伝える力)

### (3) 態度・価値

- 各グループで友達と意見を出し合い協力し合いながら練習できる。器楽の学習と平行して原曲の弦楽合奏の演奏を鑑賞し、フレーズの最初の音やバランスを意識しながら聴いて、どのように演奏したらいいのか考えながら練習することができる。(協力しあう心)(好奇心・探究心)

## 3. 児童の実態

1学期の学習では、鍵盤ハーモニカで「かっこう」をグループに分かれずにクラス全体で斉奏した。特に音が跳躍する部分の運指に気をつけて演奏した。2学期は「汽車は走る」を鍵盤ハーモニカと木琴とタンブリンで合奏し、8小節の旋律の速度を変えて反復することによって汽車の走る様子を表現し、楽器を合わせて演奏する心地よさを体験した。「ぴったり合わせられて嬉しかった」という学習の振り返りや「友達と音を合わせられたことが嬉しい」という児童の感想を受け、さらに経験を積むことで合わせる喜びをより感じられると考え、本題材を設定した。

## 4. 題材について

### ①教科から見た特性

本題材では、鍵盤ハーモニカ3パートをグループや全体で練習し、互いの音を聴きながら合わせて演奏する力を身に付けることをねらいとしている。第1段階では、同じパートで合わせる練習をし、お互いの演奏を聴き合う。第2段階では、違うパートと合わせる練習をし、さらに第3段階では全パートを合せて演奏をする。各段階で、互いに音を合わせる意識を高め、音を合わせて演奏する楽しさを感じてもらいたい。合わせることを常に意識させるため、毎時間ヴィヴァルディの『四季』の「春」の原曲のCDを聴いてから演奏する。これを繰り返すことで、児童自身が「同じパートの友達とぴったり合わせたい」「今度は違うパートの友達とも演奏したい」という意欲を高め、練習することができる考えた。

### ②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

タテ線譜を見ながら自分で鍵盤ハーモニカの練習を進める学習と、グループ練習での他者の学び合いの双方を設定した。グループ練習での学び合いの場が、協力しあう心、伝える力をはぐくむことに有効であると考え。また、授業の初めに必ずプロの弦楽合奏の演奏CDを、本時のめあてを意識しながら聴く時間を設けることが、問題解決力、好奇心・探究心をはぐくむことに有効であると考え。

## 5. 題材計画と資質・能力を育成する主な手立て（全7時間 本時3/7時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・原曲を鑑賞し、曲の雰囲気をつかみ、タテ線譜の読み方を確認して練習する。	○好奇心・探究心	○タテ線譜を見て、自分で練習を進めていく学習に好奇心を持てるようにする。
第2次 (5時間)	・タテ線譜を見て、自分のパートを練習する。 ・同じパートや違うパート同士で合わせ、また別のグループの演奏を聴いて、意見を伝え合う。	○協力しあう心 ○好奇心・探究心 ○問題解決力 ○伝える力	○原曲の弦楽合奏の演奏を、本時のめあてを意識しながら聴く時間を設定する。 ○他者との学び合いの場を設定する。
第3次 (1時間)	・全パートで音を合わせて演奏する。	○伝える力 ○協力しあう心	○他者との学び合いの場を設定する。

